



James Albert Joyce 教授

James Albert Joyce(ジェイムズ・ジョイス)教授記念号によせて

社会学部長 西 山 美瑛子

ジェイムズ・アルバート・ジョイス先生は、この1994年3月末をもって関西学院大学社会学部教授を定年で御退職になります。ジョイス先生は宣教師として学院におけるキリスト教活動に大きな貢献をされるとともに、現在、メソジスト教会日本代表として日本のキリスト教界のために献身的な働きをされております。関西学院にあっては、学院の理事、評議員として、宗教活動委員として、そうして大学のキリスト教教育、英語教育に尽力され、総合コース「平和論」の代表者として、それぞれの場面で大きな貢献を行ってこられました。今後は、関西学院大学名誉教授として関西学院の発展をお心にかけていただくこととなります。

ジョイス先生は、1953年(昭和28年)、日本が戦後の混乱期を経て漸く経済復興期にさしかかった時期に、メソジスト教会宣教師として農村伝導のため日本に着任されました。その時期の日本は産業構造からいえば農業国といえる時代で、都市では食うに食なく住むに家なしという有り様でした。先生はその後鎮西学院高等学校で9年間教えられ、関西学院大学社会学部には1966年に着任されました。それから1993学年度の今日まで28年間、先生は社会学部を含めた関西学院大学の宗教教育、英語教育に大きな貢献をしてこられました。ちなみに1993学年度の社会学部における先生の御担当科目は、人文演習、英会話ⅡA・B、英会話ⅢA・B、時事英語A・Bであり、大学全体に向けての総合教育科目としては総合コース「平和論」(代表者ジョイス教授)があります。そうして神学部においてはキリスト教学Ⅱを担当されております。

ジョイス先生は、本学のスクール・モットーである“Mastery For Service”を、学生たちが人生の重要な信条として持つことを奨励され、この言葉が持つ精神性、キリストの教えによるその意味の深さを学生たちが了解するよう望んでこられました。学生たちの英会話グループの教育にも力を注がれ、時には学院の一角にある自宅を学生たちのために開放され、学生たちは先生や夫人の誠実で温かいお人柄に接することにより大きな感化を受けてきました。そうして海外語学セミナーの責任・引率者としても、学生たちを度々海外に伴って下さいました。

ジョイス先生はさらに平和学研究において先駆的な役割をすすめてこられました。日本平和学会や国際平和学会の会員として、平和学の研究に貢献されるとともに、平和教育の

必要性を唱えられ、学内においてもそれを実践されてきました。学部での人文演習、大学の総合教育科目としての総合コース「平和論」、そして学部での講演会など先生の御声咳に私どもも接する機会がございました。ある時事雑誌に出た数を基にすれば、民族・宗教・国境等々を原因とする紛争は1993年末には世界各地で合計40にもものぼるとか、ジョイス先生の平和への希求と祈りは私どもにも身に痛く感じられるものであります。

終りになりましたが、ジョイス先生の教職員や学生に対する長年の御高導、御芳情に改めて感謝申し上げますとともに、今後の先生の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。